

(19)



JAPANESE PATENT OFFICE

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number: **07309154 A**

(43) Date of publication of application: **28.11.95**

(51) Int. Cl.

**B60K 37/00**

(21) Application number: **06131125**

(71) Applicant: **AICHI MACH IND CO LTD**

(22) Date of filing: **20.05.94**

(72) Inventor: **TANAKA MITSUTSUGU**

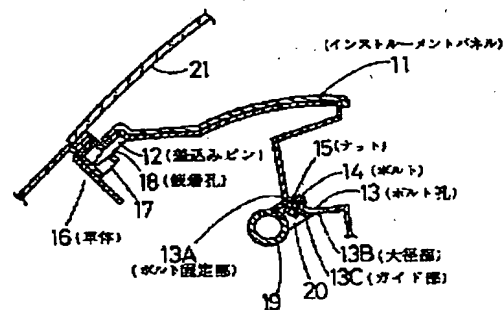
**(54) FIXING STRUCTURE OF INSTRUMENT PANEL**

**(57) Abstract:**

**PURPOSE:** To install an instrument panel in a car body easily.

**CONSTITUTION:** When an insertion pin 12 at the front end of an instrument panel 11 is inserted to an insertion hole 18 at a car body 16 side, and a bolt 14 at a car body 19 side is penetrated to a bolt hole 13 at the rear end, the bolt 14 is penetrated to the larger diameter part 13B of the bolt hole 13 at first, and then, the bolt 14 is housed to a bolt fixing part 13A by guiding it with a guide member 13C.

COPYRIGHT: (C)1995,JPO



**THIS PAGE BLANK (C3PT6)**

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平7-309154

(43) 公開日 平成7年(1995)11月28日

(51) Int.Cl.<sup>®</sup>

B 6 0 K 37/00

識別記号

C

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数1 F D (全 3 頁)

(21) 出願番号 特願平6-131125

(22) 出願日 平成6年(1994)5月20日

(71) 出願人 390009896

愛知機械工業株式会社

愛知県名古屋市熱田区川並町2番20号

(72) 発明者 田中 美津次

名古屋市熱田区南一番町7番22号 愛知機

械工業株式会社内

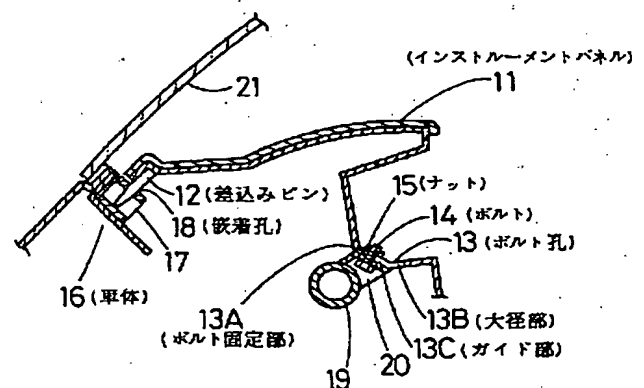
(74) 代理人 弁理士 宇佐見 忠男

(54) 【発明の名称】 インストルメントパネルの固定構造

(57) 【要約】

【目的】 本発明の目的は、インストルメントパネルを車体に取り付ける作業を容易にすることにある。

【構成】 インストルメントパネル11の前端部の差込みピン12を車体16側の嵌着孔18に嵌着し、後端部のボルト孔13に車体19側のボルト14を貫入する場合、ボルト孔13の大径部13Bにまずボルト14を貫入させ、ガイド部13Cでガイドしてボルト固定部13Aに収める。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 インストルメントパネルの前端部からは差込みピンを差出し、該差込みピンを車体側の嵌着孔に嵌着し、インストルメントパネルの後端部にはボルト孔を設け、該ボルト孔はボルトの径よりも若干大きな径のボルト固定部と、該ボルト固定部よりも大径な大径部と、該ボルト固定部と大径部との間に介在するテーパ状のガイド部とからなり、該ボルト孔のボルト固定部を介してボルトとナットによって車体側に止着したことを特徴とするインストルメントパネルの固定構造

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は自動車等の車両のインストルメントパネルの固定構造に関するものである。

## 【0002】

【従来の技術】 従来例は図5に示すようにインストルメントパネル(1)の前端部からは差込みピン(2)を差出し、後端部にはボルトと略同径なボルト孔(3)を設け、該差込みピン(2)を車体側の嵌着孔に嵌着し、該ボルト孔(3)に車体側のボルト(4)を貫通させてナット(5)を螺着して締付けを行なうことによって固定されていた。

## 【0003】

【発明が解決しようとする課題】 しかしながら上記従来の固定構造では、まずインストルメントパネル(1)の前端部の差込みピン(2)を車体側の嵌着孔に嵌着してから、該前端部を基点として後端部のボルト孔(3)に車体側のボルト(4)を貫通させるため、ボルト孔(3)とボルト(4)との位置合わせ作業に手間が掛っていた。

## 【0004】

【課題を解決するための手段】 本発明は上記従来の課題を解決するための手段として、インストルメントパネル(11)の前端部からは差込みピン(12)を差出し、該差込みピン(12)を車体(16)側の嵌着孔(18)に嵌着し、インストルメントパネル(11)の後端部にはボルト孔(13)を設け、該ボルト孔(13)はボルト(14)の径よりも若干大きな径のボルト固定部(13A)と、該ボルト固定部(13A)よりも大径な大径部(13B)と、該ボルト固定部(13A)と大径部(13B)との間に介在するテーパ状のガイド部(13C)とからなり、該ボルト孔(13)のボルト固定部(13A)を介してボルト(14)とナット(15)によって車体(16)側に止着したインストルメントパネル(11)を提供するものである。

## 【0005】

【作用】 インストルメントパネル(11)の前端部の差込みピン(12)を車体(16)側の嵌着孔(18)に嵌着し、次いで該インストルメントパネル(11)の後端部のボルト孔(13)にボルト(14)を貫通させる。この際ボルト(14)は該ボルト孔(13)の大径部(13B)から貫入し、ガイド部(13C)によってガイドされてボルト固定部(13A)に収まる。

## 【0006】

【実施例】 本発明を図1～図4に示す一実施例によって説明すれば、インストルメントパネル(11)の前端部には差込みピン(12)が差出されており、後端部にはボルト孔(13)が設けられており、該ボルト孔(13)は図2に示すようにボルト(14)の径よりも若干大きくナット(15)の径よりも若干小さい径のボルト固定部(13A)、該ボルト固定部(13A)よりも大径な大径部(13B)、該ボルト固定部(13A)と大径部(13B)との間に介在するテーパ状のガイド部(13C)とからなる。

【0007】 上記インストルメントパネル(11)を車体に取付けるには、該インストルメントパネル(11)の前端部の差込みピン(12)を車体(16)側のブラケット(17)の嵌着孔(18)に嵌着し、それから該インストルメントパネル(11)の後端部のボルト孔(13)に車体(19)側のブラケット(20)のボルト(14)を貫着する。なお(21)はフロントウィンドガラスである。

【0008】 この際ボルト(14)は図2点線および図3に示すようにボルト孔(13)の大径部(13B)に貫入し、該ボルト(14)が該ボルト孔(13)のボルト固定部(13A)のセンターよりも左右に外れている場合にはテーパ状のガイド部(13C)によって図2矢印に示すようにガイドされてボルト固定部(13A)に収まる。該ボルト(14)を該ボルト孔(13)のボルト固定部(13A)に収めたら、図4に示すようにナット(15)を該ボルト(14)に螺着し締付け、このようにしてインストルメントパネル(11)が車体に固定される。

## 【0009】

【発明の効果】 したがって、本発明においてはインストルメントパネルを車体に取付ける作業が極めて容易になる。

## 【図面の簡単な説明】

図1～図4は本発明の一実施例を示すものである。

【図1】 図5におけるA-A断面図

【図2】 ボルト孔平面図

【図3】 ボルト固定過程説明図

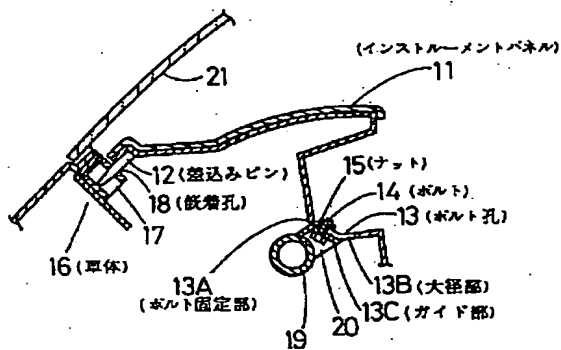
【図4】 ボルト固定状態説明図

【図5】 従来例の斜視図

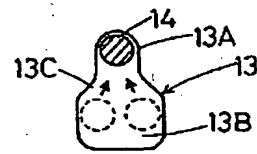
## 【符号の説明】

11	インストルメントパネル
12	差込みピン
13	ボルト孔
13A	ボルト固定部
13B	大径部
13C	ガイド部
14	ボルト
15	ナット
16	車体
18	嵌着孔

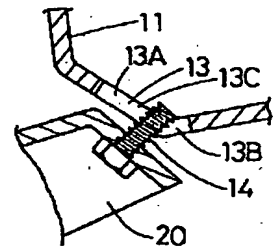
【図1】



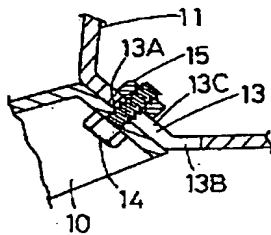
【図2】



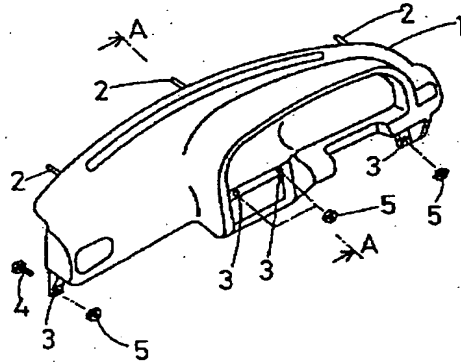
【図3】



【図4】



【図5】



**THIS PAGE BLANK (USPTO)**